ぶんけい
教育ほっとにゅーす
かわら版

教育の小径（こみち）

No.183
2024 January
1月号

(一財)総合初等教育研究所参与
北 俊夫先生

今月のことば

心機一転（しんきいってん）

気持ちをすっかり入れ変えて、よい方向に出なおすことです。「心機」は心の動きのことであり、「一転」とはそれをすべて変えることです。「心気」ではありません。

教師に求められる５つの役割

- 教師には、コンダクター、アドバイザー、パートナー、ティーチャー、コーディネーターとして、多様な役割を発揮することが求められます。
- 5つの姿の基盤には、社会人として求められる資質・能力に加えて、教師としての職務から求められる固有の資質・能力が位置づいています。

今月の記念日

1月3日　**瞳の日**

瞳をいつまでも美しく健康に保つことを呼びかけるために、眼鏡・コンタクトレンズの業界が制定しました。「ひと(1)み(3)」の語呂合わせです。

５つの役割とは何か

教職とは、学校教育の場で子どもの教育と成長に関わる重要な仕事のことです。そこでは、教師として次のような役割を常に意識しつつ、子どもたちに接することが求められます。

１つは、コンダクター（指揮者）としての教師です。多様な楽器の演奏者を見わたし、それぞれの音色を生かしながら、作品をつくりあげているオーケストラの指揮者のように、担任教師にも子ども一人一人のよさや持ち味、個性を生かしつつ、学級全体に目配りする力量が求められます。子どもや学級の状況を観察する力や一人一人を理解する力が必要になります。

２つは、子どもにとってよきアドバイザー（助言者）としての教師です。一人一人の子どもに寄り添い、適切にアドバイスしながら、子どもたちが最適に学びを深めていけるように関わることです。子どもの伴奏者、サポーターといってもよいでしょう。人生の先輩として水先案内を行い、つまずく前に杖を差し伸べることもあります。

３つは、子どものパートナー（協働者）としての教師です。子どもたちと共に知恵を出し合い、共に活動し、共通体験することで、子どもたちのよき理解者になります。教師は教室という学習環境の中核的な位置にいます。

４つは、子どもたちに学力をつけるティーチャー（指導者）としての教師です。子どもの自主性や自発性を尊重しつつ、必要なことは適切に指導します。子どもの学力の向上、人権の尊重や人命の重視、安全の確保には特に気を配り、指導力を発揮します。教えることを躊躇する必要はありません。

５つは、コーディネーター（連絡・調整者）としての教師です。教室内の子どもたちの人間関係づくりに心を配り、学級全体が集団として機能するよう努めます。また、学年など校内のあらゆる教職員と報告や連絡や相談を密に行うことが求められます。保護者やＰＴＡ、地域の諸団体など外部の人たちへの連絡や調整も欠かせません。

このようにみてくると、学級を預かる教師には、子どもたちに対して５つの役割があることがわかります。

なお、文中の「教師」を「校長、副校長・教頭」に、「子ども」を「教職員」に置き換えると、ここに紹介した学級担任等の役割は、管理職に求められていることでもあります。

５つの役割を発揮するために

５つの役割を効果的に発揮するためには、教師に何が必要になるのでしょうか。まずは、教職という固有な職務内容から求められる資質・能力があります。具体的には、学校教育の役割を理解し、授業観や子ども観など確かな教育理念をもつことです。これらは教職に対する使命感や子どもたちへの愛情と責任感につながります。

そのうえに、教科の学力を身につける学習指導力、子どものよさや可能性を見いだし生かす生徒指導力、子どもたちが学校生活を生き生き伸び伸びと送れるようにする学級経営力、さらに家庭・保護者との円滑な関係を築く連絡力や調整力などが必要になります。

勉強の教え方や子どもの育て方の上手な教師は、子どもたちはもちろんのこと、保護者や地域の住民からも信頼され、尊敬されます。

教師は教師であるまえに、社会人です。人間でもあります。このことは社会人として、人間として求められる最低限の資質・能力を身につける必要があることを意味しています。例えば、社会における規範意識や遵法精神、人権の尊重や弱者への思いやりの心、ボランティア精神などです。

時代を生きる社会人として求められる資質・能力を身につけるとともに、教育のプロとしての専門性を備えた教師として成長していきたいものです。

新学級経営の 基礎知識

学級経営案に盛り込みたい事項

学級経営案に定まった形式や内容はありませんが、一般に次のような項目から作成されます。

まず、学級の目標です。学校の教育目標や子どもたちの実態を踏まえ、将来生きていくうえで必要となる資質・能力を視野に入れて設定します。これは育てたい子ども像でもあります。多くは知・徳・体の３つの要素が基本になっています。子どもたちに徹底させるため、学校や学年の目標とともに、教室の正面などに掲示されます。

次に、学級の子どもの実態です。具体的には、子どもたちの発達上のよさや課題をはじめ、学力の状況や学びの傾向性、生徒指導の課題などです。子どもたちの実態や課題を把握することは子ども理解を深めることでもあります。子ども理解がこれからの指導のスタート台になります。

そして、これらを踏まえて、本年度の学級経営の基本方針を定めます。これは、どのような学級にしたいのか、担任の夢や願いを表したものです。ここには担任の個性が表れます。同じ学年であっても、学級によって違いが出てくることがあります。

さらに、本年度の指導の重点事項を設定します。学習指導や生徒指導については具体的に記述します。その際、学習指導要領が求めている授業づくりの課題を踏まえます。ここではあくまでも重点ですから、内容が網羅的にならないようにします。そして、教室環境づくりや保護者との連携などの観点です。これらは子どもたちの活動を支える重要な意味があります。

これらの項目を総合的に整理し、書き表したものが学級経営案です。

教育の動向

「体育座り」の見なおし

体育科や児童集会などの場で子どもたちを床などに座らせるとき、多くの学校では、両足を曲げ、両手で両膝をかかえる方法、いわゆる「体育座り」が一般的に行われてきました。

いまも多くの場面で、座るときには「体育座り」をするよう、子どもたちに指導している学校が多いことでしょう。その「体育座り」を見なおす動きが一部の学校で出てきました。

体育座りは背中が丸まるために、腰に過度な負担がかかるそうです。そのため、長時間座っていると腰痛の原因になると、医療関係者から指摘されています。座ったとき、座骨に圧力がかかるために、痛みや足のしびれが出ることもあるといいます。

文部省（当時）が昭和４０年（１９６５年）に発行した『体育（保健体育）科における集団行動指導の手びき』には、腰を下ろして休むときの姿勢として、「体育座り」の方法が例示されています。あくまでも例示でしたが、これが多くの学校でいまに引き継がれています。学校は「そうするもの」と受けとめてきたのかもしません。

かつて運動しているとき水分を補給することは禁止されていました。また「ウサギ飛び」が盛んに行われましたが、専門家からの指摘で、股や膝、腰などに負担をかけることから、いまではほとんど実施されていません。

連載 先人の残した言葉 3 ジョン・デューイ

興味こそ自然の資源であり、投資されざる資本であって、子どもの活動的成長はこれらの興味を働かせることにかかっている。

ジョン・デューイは、アメリカの哲学者であり、教育学者です。子どもの自発性を重視した研究者です。戦後日本の学校教育の再出発に大きな影響を与えた人物でもあります。

この言葉は、デューイの主要な著書である『学校と社会』のなかで述べられています。ここでは、子どもが健全に成長するかどうかは、子どもに「興味」を働かせることができるかどうかにかかっているといっています。

そのうえで、シカゴ大学附属実験学校で収集した実践記録をもとに、ここでいう「興味」について、コミュニケーションへの興味（会話）、事物を発見することへの興味（探究）、物を作ることへの興味（工作）、そして芸術的な表現への興味の４つに分類しています。興味は「資源」であり「資本」であると、子どもの成長における「興味」の重要性を強調しています。

こうした考えから、学校では子どもたちにこれらの興味をもたせ、発揮させる授業を展開することが必要になると、授業のあり方を子どもの側から捉えていました。また予め定められた知識を習得させるだけの授業ではなく、知識を身につけさせ能力を育てる授業を高く評価していました。

デューイは、プラグマティズム（実用主義）といわれる実践を重んじる教育方法を主張したことでも知られています。知識を社会において生きていくために必要な道具とみなし、行為や行動との関係で知識を捉えていました。

INFORMATION

保護者と語りたい
子育て話材50
北 俊夫 著

子育てに悩む保護者と保護者を見守る先生に向けたとっておきの話材集

お問い合わせ・ご注文は文溪堂代理店まで!

ぶんけい きみの手に、みらいの夢を。

保護者会の話題づくりに、学級通信のコラムに、そのまま使える!

A5判112ページ
定価：1,320円(税込)

編集後記

あけましておめでとうございます。2008 年に発刊した「教育の小径」は 16 年目に突入し、２度めの辰年を迎えました。北先生も編集子もまだまだ意気軒高。「竜が水を得たる如く」今年も邁進してまいります。（H 記）

ぶんけい きみの手に、みらいの夢を。
企画・編集：ぶんけい教育研究所
発　　行：株式会社文溪堂
発 行 日：2024年1月1日